

2018年度卒塾生 涙を超えて行こう

生まれて初めての受験—中学入試を経験しない当塾のほとんどの塾生にとって高校受験がそれにあたる。自分で志望校を決めて、自分でその結果も受け止める、そんな高校受験は人生初の試練と言っても過言ではないだろう。見事に第一志望校に合格できれば、それはすばらしい成功体験となってその後の人生を送る上での自信になる。だが、必ずしもみんなが志望校に入れるわけではない。第二志望者が流れ込んで来る可能性の極めて低い旭丘高校ならば実際の倍率が出せるので計算をしてみると、定員 320 人に対して今年第一志望者が 468 人だったので、合格できたのは全体の約 68% だった。およそ 3 人に 2 人しか合格できないのである。もちろん各高校によってその数字は異なるが、定員割れでもしないかぎり 100% 合格ということはない。当塾の第一志望合格率は 90% であるが、やはり合格に届かない塾生も出てしまう。

今年、頑張ったのに残念ながら希望した学校に合格がかなわなかった塾生が二人いた。内申が足りなかったという現実はある。しかし、それを挽回するべく努力に努力を重ねたのに届かなかったのである。こんなに悔しいことはない。涙だって出る。ただ、この結果がその後の人生においてマイナスかということ必ずしもそうとは言えない。むしろ気持ちの持ち方次第で大きくプラスに働く。これは今まで数多くの塾生のその後を見てきた私には断言できる。

全ては気持ちの持ち方次第なのである。以前、こんな話を聞いたことがある。第一志望校に失敗して第二志望校に通うことになった子がいたそうだ。本人は「こんな高校は自分の行くべき高校じゃない。」と言って腐ったままで高校生活を過ごし、結果的に大学受験も不本意な結果だったそうである。残念ながらこういう気持ちのままではこの挫折の経験はプラスにいかせない。自信をくじかれ、打ちひしがれた状態から立ち上がるのは難しいかもしれないが、それでも乗り越えるしかないのである。ここで終わりではないのだから。むしろ、ここからが始まりである。自分の置かれたこの場所で全力を尽くすしかない。二人の塾生はよくわかってきている。渡してくれた手紙にはこうあった。「志望した学校には行くことはできませんでしたが、その学校でどうがんばるかが大事だと思うので、どんな学校でもがんばろうと思います。」「この高校で頑張ろうと思いました。悔しくないというのは嘘になるけど、自分が進む道なので後悔はありません。」—私はこの二人のことを誇りに思う。そして、この二人ならばこの経験を必ずプラスに変えてくれると信じている。今までの塾生がそうだったように。若い頃の挫折はそれを乗り越えれば心を強く育てる。今の素直な気持ちのままなら大丈夫だよ。二人とも頑張れ！